

Q 2 : 指導者が一人の場合、習熟度別指導はどのように進めたらよいか。

A : 一人一人の児童生徒が学習内容を確実に身に付けることができるようにするため、指導者が一人の場合においても習熟度別指導を行うことは有効な指導方法である。この場合、教師は習熟の程度に応じたそれぞれのコースを行き来したり、または一方を重点的に指導したりすることになる。そのために、児童生徒への支援の仕方や教材等を工夫して、直接指導と間接指導を効果的なものにした。また、児童生徒が主体的に学習を進めていけるような意欲や態度の育成にも留意したい。指導者が一人による習熟度別指導として、次のような例が考えられる。

《一斉指導の後、理解や習熟の程度に応じて指導する》 T : 教師の主な位置

```

    graph LR
      A[全員で理解をすすめるための学習  
(一斉)] --> B[理解した子ども]
      B --> C[習熟問題]
      C --> D[達成した子ども]
      D --> E[発展問題]
      A --> F[T 補充学習]
  
```

【方法例】

- 児童生徒の考えを大切にしてコースを選べるようにする。(必要に応じて教師が助言)
- 教師は、主として補充学習の児童生徒を指導することが考えられる。この場合、習熟・発展問題に取り組む児童生徒は、自己採点などにより自主的に学習を進める。分からないときには、教師に質問したり友達と考え合ったりする。

《一斉授業の中でミニ授業を取り入れる》

【方法例】

- 理解が十分でなかったり解決活動につまずいたりしている児童生徒を集めて、短時間の指導をする。
- 進んでいる児童生徒に新たな課題を提示したりする場合にも有効である。

《習熟の程度や学習の速さ等に応じた問題を用意する》

```

    graph LR
      A[T 補充問題] --> B[基本問題]
      B --> C[習熟問題]
      C --> D[発展問題]
      A --- L1[達成した児童生徒]
      B --- L2[達成した児童生徒]
      C --- L3[達成した児童生徒]
  
```

【方法例】

- 単元末や学期末のまとめの学習等で取り組み、次々と進級していくようにする。
- 各問題の解答やヒントなどを準備しておき、自主的に取り組めるよう支援する。
- 教師が直接 を付ける問題を設定し、一人一人の取組の状況を把握して個別指導をする。
- 分からないことや困ったことなどは、進んで教師に相談できるようにする。

《学習内容をずらして直接指導と間接指導を組み合わせる》

基礎コース	課題把握	課題追求	解決・整理	習熟
T (教師)	直接指導	間接指導	直接指導	間接指導
共通	共通			共通
発展コース	前時の習熟・発展	課題把握	課題追求	解決・整理
	間接指導	直接指導	間接指導	直接指導
	習熟			

【方法例】

- 習熟の程度や理解の速さに応じて、それぞれのコースに適した教材を準備したり支援を工夫したりする。
- 直接指導と間接指導の時間配分やそれぞれの指導内容などについて具体的に計画を立てる。
- 間接指導の際、児童生徒が個人で、またはグループなどで協力しながら学習を進められるように、「学習の進め方」を提示するなど主体的な学習を支援する。